



新年の決意 それぞれの0学期に向けて ～始業式で語った代表の思い～

二学期の終業式で、夢や目標をもつこと、挑戦すること、その過程を楽しむことについてお話ししました。それを受けて、みなそれぞれの夢や目標を描いて始業式に臨みました。始業式では、代表の3名が想いを語ってくれました。

学年に応じて、それぞれの節目を意識し、前向きに生きていこうと、そんな力強い決意を感じることができました。



今、正しい判断とは？

「正しい判断をしろ。」

これは、ある先生が僕たちに伝え続けてくれた言葉です。今僕は、その「正しい判断」ができているのか不安です。それは、卒業と受験の両立です。

みんなといられるのも、あと何日だろう。二学期の終わり頃から、心の中でカウントダウンが始まりました。あとすこしで「卒業」するということ。「受験」をするということ。この二つで僕の頭の中はいっぱいです。

最後なんだから、みんなと笑って過ごしたい。みんなとできるだけ楽しいことをしたい。3の2は個性であふれています。授業こそみんなと一緒に考えて考えることができるけれど、休み時間になれば、歌う人や踊る人、ボケる人とそれにツッコむ人。読書する人もいれば、寝る人もいます。でも、その横でテキストを開いて黙々と勉強をし

石橋 神威(3-2)

ている人がいて、僕はいつも悩まされます。自分はこれでいいのか、と。

今、僕にとっての正しい判断とは、何をすることなのだろう。そう考えると、一瞬時が止まります。

二学期の終わりに、奥谷先生が「三年過ごした東中に、何かできることはないかな？」と、僕たちに提案をしてくれました。だから、僕たちは、朝と帰りに、廊下の雑巾がけを始めました。

答えははっきり見つかっていないけれど、「正しい判断」というのは、「誰かを思いやること」だと思いました。だから僕は、クラスみんなで「いいこと」を続けていきたいと思っています。

「誰かを思いやる」のは、誰かに「感謝」を伝えることと一緒にです。2組から始まった「感謝の思い」が、3年生みんなまで共有できるようになったら、僕はなんだか「いいこと」をした思いで、卒業式を迎えられると感じています。

将来の夢の実現のために

みなさんには、将来の夢はありますか？

私にはあります。それは小学校の先生になることです。先生という職業は、子どもたちに勉強を教えたり、一緒に楽しく遊んだり、時には真剣に叱ったり、さらには子どもたちが帰った後に、授業の準備や行事の計画など、やらなければならないことがたくさんある大変な職業だと思います。その一方で、子どもたちと一緒に生活することで、勉強や運動などで、できないことができるようになった時に共に喜び、共に笑うことができる素晴らしい職業だと思います。だから私は、小学校の先生になりたいです。

小笠原優衣(2-1)

今月、私たち2年生には、職場体験があります。私はそれで小学校に行くことが決まっています。そこで、小学校の先生の仕事を実際に見て、体験して、学びたいと思います。自分の夢に少しずつ近づくために一生懸命がんばります。

また、「2年生の3学期は、3年生の0学期」とも言われていて、あと3ヶ月もしないで3年生の先輩方が卒業されます。最上級生に近づくことや職場体験を通して得ることのできる礼儀やマナーを意識して、これからの3年生の0学期をがんばろうと思います。

僕の今年の目標は「挑戦」です。たくさんのごとを全力で挑戦することで自分が多くのことを経験し、新しい道が開けると思うからです。

僕はサッカー部の1年生のキャプテンになりました。キャプテンとして、2年生の先輩を支え、チームが一つになるように、素早く行動したり、仲間を励ましたりと努力しています。仲間を励ますことで自分自身も気合が入り、集中することができますからです。僕がミスしたら、「ドンマイ」と声をかけてくれる仲間がいます。僕も仲間に対して「楽しくやろう」、「ナイス」と声をかけています。声をかけ合うことで僕も仲間もうれしくなります。この仲間とお互いを高めあい、1月の大会で優勝して、県大会で優勝するという目標に向けて全力で挑戦していきます。

学級では後期室長として、クラスを引っ張ることを心がけてきました。3分前着席の声かけをはじめ、クラスを明るくするにはどうすればいいかを考えながら先頭に立って行動してきました。合唱コンクールでは、練習でいいところをほめ、ク

ラスの仲間にアドバイスをしました。そうすることで練習の雰囲気も良くなりクラスで団結することができました。賞を取ることはできませんでしたが、クラスの絆を深めることができた行事になりました。しかし、授業の始めのあいさつの声が小さかったり、学校生活に慣れダラダラしたりする部分が出てきてしまっています。そこで、今まで以上に声かけをして、みんなと協力して2組を良いクラスにしていきたいと思います。

あと3ヵ月たつと、僕らは2年生、先輩となります。後輩の手本となれるように残りの日々を過ごしていきたいと思います。自分が先頭に立って、後輩や学年の仲間を引っ張ることで、先輩としての姿を示していきたいです。そして、後輩に東中学校の良さを知ってもらうために、自分自身を見てお手本にしてもらえる言動をして、「みそあじ」を大切にしてもらえるようにしていきたいと思います。

3学期は、2年生に向けての準備をする大切な学期です。部活や勉強にしっかりと取り組み、笑顔でたくさんのごとに挑戦していきたいです。

3年生合格祈願ダルマ開眼の儀

1月12日(金)3年生が、入試に向けて合格を祈ってダルマ開眼の儀を行いました。ダルマは転んでもめげずに何度も起き上がるという気合をあらわし、七転八起の縁起物。式では、ダルマの右側の目を書き入れるための墨作りとして、3年生全員が願いと誓いを込めて2~3回ずつ墨をすりしました。願いの十分にこもったとても濃い墨になりました。その墨でダルマの右側に目を入れました。今後は、合格した生徒から順にダルマの左目に小さな点(目)を入れていきます。



「想像して」この作品に込められた思い ~造形展の作品の中から~

市内造形展が11月11日(土)、12日(日)に開かれました。今年の造形展のテーマは「想像して」というテーマでした。そこで、2,3年生は自分の思いや考えを絵画に表現してみようと試みました。優れた作品も多く、「こんなことを考えているのか」と感心することしきりでした。下の絵はその中の1点で、池口亜優(2-5)さんの作品です。あなたはこの絵からどんなことを感じとりますか?作品に込めた想いを紹介します。聞いてみると思わぬ考えに驚き、また作品の感じ方も変わってきます。

まわりからは温かい言葉がけや慰めの言葉をもたらしているけれど、それを全て聞き入れず、全て自分を責める言葉だと思ってしまう彼女。窓はマジックミラー。外からは彼女の様子や思っていることは全く見えず、こんなに荒れてしまっていることに気付かない。心が腐り自分自身も黒く腐り始め、どんなに優しい言葉をかけられても捉え方によっては自分を傷つける言葉に聞こえてしまう。

